

# PABLO CRUISE

'70sのカリフォルニアで絶大な人気を誇ったサーフ・ロック・バンド  
3つの顔を持つパブロ・クルーズ

7.31 fri. - 8.2 sun. 公演情報はP10へ



パブロ・クルーズはいろいろな面を持つおもしろいバンドだ。僕がサンフランシスコに住んでいた70年代、彼らは北カリフォルニアを代表するソフトロックのバンドだったが、同時に南国のムードをたっぷり持ち合わせていて、当時のアメリカのFMラジオではよく流れていた。しかしその何年か後、日本ではまったく違う世界で人気を手に入れていた。そのひとつはディスコ。80年代では「What' cha Gonna Do?」や「Love Will Find A Way」が、ディスコでかかる曲になっていた。僕が知っているFM局のスタンダードだけではなかったことに、本当に驚いた。そしてもうひとつは「Zero To Sixty In Five」が、サーフ・ミュージックを代表する曲になっていたことだ。この曲は今でも世界中のサーファー達に愛されている。なぜなら1977年のサーフィン映画の代表作『Free Ride』のサントラに入っていたからだ。

これほど幅広いジャンルのファン層を持っているバンドは、それほどいない。アメリカFM、ディス

コ、そしてサーフ・ミュージック。全く違う世界で愛されている。とはいえ、僕にとって、彼らはビーチ・ボーイズと並び、アメリカの西海岸や海を思わせるバンドだ。いつでもどこでも、パブロ・クルーズを聞けば潮風や波の音を感じることができるし、海辺に連れて行ってもらえる。たとえ波のいい日に仕事で海に行けなくても、彼らのサウンドを聴くだけで、僕の心はすっとリラックスできるんだ。



**George Cockle(ジョージ・カックル)**  
インターFMの音楽番組「レイジーサンデー」のDJをはじめ、音楽誌「レコード・コレクターズ」への執筆、トークショー、イベントのMCなどで活躍。最近ではエッセイ本や絵本も出版。

RECOMMEND 名曲「ビック・アップ・ザ・ビーズ」はライブで!



**アヴェレージ・ホワイト・バンド**

7月10日(金)~7月11日(土)

'70s-'80sに数多くの名曲を生んだ「ブルー・アイド・ファンク」の真髓 公演情報はP6